

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム はごろも(ユニットⅡ)

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホーム はごろも(ユニットⅡ)		
所在地	岩手県奥州市衣川区古戸45番地		
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 24 日	評価結果市町村受理日	平成26年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372500553-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372500553-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 3 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然の中で四季を感じられる。  
一つ屋根の下でつながっている衣川診療所(内科、歯科)及び奥州市衣川総合支所があり、また同一法人の特別養護老人ホームも隣接していて、入居者、ご家族には手続き健康面などで連携が取りやすく安心して暮せる体制になっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのある敷地内には奥州市の支所や診療所、特別養護老人ホームなどがあり日頃の連携がとりやすまた、法人の協力体制も整備されており、利用者の安心に繋がっている。利用者は広い敷地内を散策し農作業の機械音を聞き進捗状況を見ながら日光浴を楽しみ園児ら訪問者との交流を楽しんでいる。また2つのユニットは、フロアでつながり交流も頻繁にあり、一緒に外出することも多い。職員は利用者の担当制を敷き家族との連絡や介護計画見直しの責任をもち自己評価も職員全員が取り組み振り返りながら職員間での報告・連絡・相談体制を大切にして支援に活かしている。利用者のADLの低下に伴い外出の機会が少なくなりつつあったが職員体制の異動と工夫によりドライブを兼ねた「ちょこっとお出かけ」支援が多くなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム はごろも(ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで生活してきた一人一人の暮らしの継続を目的とし、スタッフ会議や毎日のミーティング等で話し合い「ありのままのあなたに寄り添います」という理念を構築している。また、目につく場所に掲示し、常に意識しながら個々に合った援助に努めている。	利用者の言葉や気持ちを尊重し、今までの暮らしが継続できる支援を心がけている。理念は玄関とそれぞれのホールに掲示し、会議やミーティングで実践の確認を行うなど常に意識をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近隣の学校行事等の際は参加したり見学に出かけている。また、衣川保育所の園児には散歩コースにしていたいただき交流の機会を設けている。	地域の行事参加や小・中学校の運動会見学の他、幼稚園児と合同誕生会やクリスマス会の交流などもある。又事業所の敷地は保育園児の散歩コースであり、楽しい交流の場となっている。診療の帰りに立ち寄る人もいる。	毎日生活を共にしている職員が、認知症のケアと事業所の理解について、地域へ発信し続ける事は大きな意義がある。今後も地域で必要とされる活動や役割を積極的に取り組んで行くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の介護者教室に出向き認知症の方々への理解や支援の方法を講演していたが現在は行えていないため、再びこのような機会を持っていかなくてはいけないと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告を行い困っている事や悩んでいる事に関しての助言を頂いたりしている。入居者の方々の立場に立った意見を頂くことにより心身状態の変化に合わせた支援を行うよう意識づけできている。	2ユニットの合同会議となっており、利用者の様子や今後の予定の他、委員からは活発な意見や提案が出される。夜間の見守りや防災訓練の助言などをいただいております、利用者にも意見を出しやすい支援がなされている。	保健・医療はもとより保育園や公民館関係者など外部の協力者を「その都度委員」として依頼し、より広範な情報や意見・提言を戴き利用者の「ありのままに寄り添う」支援にさらに活かせるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一つ屋根の下で建物が繋がっており、気軽に相談できる環境にあり助言、協力を得ている。	行政の保健・福祉関係機関や医療機関が同一敷地内に隣接しており連携を取りやすい環境にある。事業所内の情報提供や生活保護受給者・権利擁護など事務内容も出向いて指導・助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で学習会を年1回行っている。全スタッフに資料を渡し個々に学ぶ機会を設け知識を得るようにしている。また、玄関は全く施錠することなく自由に入出入りできるようになっている。入居者も見守り、付添し自由に入出入りできるようにしている。	「身体拘束ゼロ作戦」の資料を独自に作成し、スタッフ会議で学ぶことにより、認識を深めている。施錠は夜間のみで、利用者が出かけるときは付き添い、自由な出入りにしている。車椅子利用や言葉による拘束などお互いに注意し合っているほか、ケアにより服薬の量が減る利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は改めて行っていないが、職員・家族からの虐待防止に努めている。また、入居者間の虐待等の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について改めて学習会は行っていない。現在権利擁護を利用されている方がおらず制度に触れる機会もなくなっている為パンフレット等を使ってどのようなものであるのか学習会を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には本人・ご家族の悩み、意向を伺い入居する際の不安を軽減できるよう努めている。解約の際も十分な説明と話し合う機会を持ち、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や地域の方々に行事に参加していただいた後のアンケートや運営推進会議などで出された入居者の意見、日常生活での会話を通じ本人の要望や不満を聞き出せるよう心がけ改善、反映に努めている。	日常の会話の中で利用者の希望の把握に努め、玄関の意見箱の設置や行事の際にアンケートを実施するほか、来訪時に直接家族に意見や要望を確認している。その内容を職員会議などで話し合い、速やかな対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月一回実施しているスタッフ会議において職員の意見や悩んでいることを話し合う機会を設けている。	毎月のスタッフ会議やミーティングで職員の意見や提案を聞き話し合いをしている。「気づき記録シート」の作成や日誌の簡素化、入眠効果のある芳香剤使用など多くの提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度導入により管理者と就業環境について話すことができ安心かつ向上心を持ち業務にあたる環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会での交換研修会や法人内外での研修に参加を促している。スタッフ会議内において担当者が中心となり2か月に1回のペースで学習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会での交換研修や定例会への参加を通じて他施設職員との交流や学ぶ機会があり、サービスの見直しにも繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や実態把握票等を使用した情報収集を通じて要望を聞いたり、入居後もことあるごとに要望を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の際にも情報収集を行ったり、入居後も良好な関係をつくっていける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談があった際には、現在の状況をお聞きして、場合によってはヘルパーやデイサービスの利用、他入居施設も紹介しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で炊事や洗濯干しなど一緒に作業を行ったり過去の経験を生かした取り組みを行って頂いているが、身体状況の変化により「お世話」をしている状況になっていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を多く設けていただくようお願いしたり、外泊をする等入居者とご本人とご家族の関係性を維持できるような働きかけを行っている。面会時には居室でゆっくりと過ごしていただけるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りや地域の行事に出かけたりしているが、他区から入居されている方々に対する支援は薄いと感じている。	馴染みの理髪店や近所の人、知人の訪問があり陽気の良い日は、ドライブを兼ねて、ジャスコや平泉へ買い物に出かけている。地域の祭りや大根の収穫祭に参加する等地域とのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士と一緒に過ごしていただく等配慮を行ったり、一人で過ごすことが多い方には職員が対応するなど関係性の構築に努めているが、重度の認知症の方と軽度の認知症の方の間で試行錯誤している段階である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も気軽に足を運んでいただけるよう関わりを持っていけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向に添える様に一人ひとりとコミュニケーションを図る様になっている。また入居者の立場に立って検討しケアプランを作成するなどしている。	利用者は入浴時やトイレ利用時、お茶の時間などに思いや希望を話す機会が多く、日誌や利用者シートに記録し職員間で共有を図っている。困難な場合は表情や仕草、行動から真意を汲み取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やその後もご本人とのかかわりを通じて馴染の暮らし方をお聞きしたりしている。日誌や個人ケースを利用して情報の共有に努めているが、入居者、職員ごとに差があるようである。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々起きたことは日誌や個人ケースに記録し、現在の状態の見極めに利用しておりそれを通じて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議内で入居者の現状を確認し合っている。ケアプラン更新の際には居室担当者が評価を行い、ご家族にも普段の関わりの中で希望を伺いケアプランに生かすよう努めている。認知症の進行により希望をうまく伝えられない方については反映しきれないと感じている。	スタッフ会議で日頃の担当者の気づきや意見、又家族の意見も交えて話し合いを行い、介護計画を立てているが、医療やADLに重点を置くことが多いとしている。評価を行いながら利用者の変化や家族の希望に応じた見直しをしている。	サービスや介助の計画にとどまらず、利用者の暮らしの目標がある介護計画の作成にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や日誌を活用して情報の共有に努めている。ケアプラン更新の際にはスタッフ会議内で話し合いを行い、作成の参考としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の誕生祝いをご家族が他の施設で行うこととなったが、お祝いを込めてということでその施設まで送迎を行った。ケースによっては出来る範囲で柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設している特養で行われている習字教室等の際に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医を利用していただいている。診療所以外の病院を通院する際には毎回「最近の様子」をまとめ職員が同行しなくてもご家族が通院の際困らないよう対応している	隣接の衣川診療所の協力医をかかりつけ医にしている利用者が多く、定期的受診は職員が同行している。受診時は「対応票」にて医師に情報を提供し、結果は来所時家族に伝えている。家族対応の時も本人の様子が把握できるようにして情報の共有を図っている。なお重症化や変化が見られたときは、家族同伴の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、入居者に気になる点があれば併設の特養ホーム看護師より助言や確認をしてもらえ得る体制となっている。協力をいただきながら早期の対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、病院との情報交換をできていると思うが、その内容がスタッフ全員で共有できていないように感じる。病院関係者との関係定期通院時等の相談のみにとどまっているのでより良い関係を構築していきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではターミナルケアを行う設備・人員等が十分であるとは言えず、他施設での対応をお願いしている。状態の重度化が考えられる場合はご家族に説明を十分に行い必要に応じて他施設への入所申し込みを行っている。	現段階では重度化や看取りの体制は十分ではなく、出来ること、出来ないことを入居時に家族・本人と話し合い理解を得ている。看取り意向の利用者もおり職員研修を重ね、重度化しつつある状況に応じて医療機関や他事業所・家族と連携を取りながら本人・家族が不安を抱くことがないように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会に参加した職員もいるが、新任職員は実施できていない。実際に事故が起きた際の対応には不安がある諸君も多いようである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施と避難誘導マニュアルを目の付きやすい場所に掲示し常に確認できるようにしている。避難経路に物を置かないなど経路の確保に努めている。法人全体の組織として地域防災協力隊があり、地域との協力体制を築いている	消防署の指導と地域防災協力隊の協力を得て、法人と年2回の合同防災訓練を実施している。事業所独自の夜間を想定した避難訓練も行い、非常口や通路などの確保に努めている。職員が常に意識できるように、災害時のマニュアルを目につきやすい場所に掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の考えを尊重しながら、個々に合った声かけを行えるように心掛けている。尊厳やプライバシーに配慮した声かけを実践している。	個別の話は居室を選び、トイレ誘導時は耳元で声かけをするなどプライバシーに配慮している。また年長者として敬意を払った対応を心がけているが、かえってよそよそしくならないよう申し合わせ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇しませんか？」等の声かけで自分の意思決定ができるように心掛けている。しかし、意思表示の少ない方に関しては諸君の思いが強くなってしまふこともあるように思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせる様心がけているが、集団でのレク活動になったりし、職員の都合が優先になってしまうこともあり、希望に添った支援ができないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時と場面に合わせた身だしなみ、服装にして頂ける様に配慮しているが、ご本人に服を選んでもらう機会は少ないように思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを一緒に行える機会は持てていると思う。ご本人の好き嫌い等に合わせて食事を提供するよう努めている。	利用者の好みや嫌いな物を聞き、職員も一緒に食事を楽しんでいる。季節ごとの料理を共に作るほか紅葉狩りや花見の時は外食を楽しみ、誕生日は特別メニューである。食事の準備や後片付けも利用者の力に合わせ一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせた食事量や形態で提供しており食べやすくなるよう工夫はしている。水分の摂取に関してもできるだけ好むものを提供し摂取量アップにつなげる努力をしている。栄養に関しては管理栄養士の立てたメニューをアレンジして提供しておりある程度のバランスは取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後には歯磨きの声かけや一部介助を行っている。自分でやっている方に関しては口腔内の状態を把握し切れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄間隔を把握して声かけを行ったりしている。トイレに行きたい様子が見られたときにはさりげなく誘導し、失敗が少なくなるよう努めている。	出来るだけトイレで排泄できるよう排泄チェック表をもとに利用者個々の排泄リズムやしぐさに注意してトイレ誘導をしている。夜間もポータブルは使用せず出来るだけトイレ誘導を優先した支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中にさつま芋等繊維の多く含んだものを使用したり、水分を多く摂取するような声かけを行っている。ラジオ体操やレク活動の機会を設け運動の機会を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は職員の多い午後の時間帯に行い基本的には1日おきに入浴していただいている。その中でご本人の状態を把握しながらタイミングを見て入浴して頂いたり、体力的に不安な方は2日おきにさせていただき等している。現在夜間入浴を希望される入居者はいないが、対応は難しいと思われる。	基本的には午後の時間帯で1日置きの入浴となっている。全員個別の介助により支援しており、歌や思い出、家族の話などリラックス出来る場となっている。冬には保湿のため入浴剤を使用している。入浴を拒む人は再度の誘いや清拭で対応する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼休みの時間を取ったり、夜間に混乱や落ち着きのない等の変化がある場合には、お話を傾聴するなどして安心感を持っていただき、なるべく休んでいただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容は個人ケースに綴っていつでも確認できるようにしている。服薬支援に関しても誤薬のみ忘れが無いよう職員同士で確認・声かけを行い服薬後も体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせた役割分担をし、毎日その方が出来る事を見極めながら手伝っていただいている。しかし特定の方のみ手伝いをしていただいていることが多いように感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れている日や気温に合わせてであるが、なるべく外に出てドライブ、散歩やひなたぼっこをしている。また希望があれば希望する床屋への希望外出を行っている。	天気の良い日は、日向ぼっこや施設内外の散歩をしており、近場のドライブや胆沢ダム、敵美溪へ出かけ、利用者の要望をとり入れた外出支援をしている。また家族の協力を得て外出する人もあり、誕生日は希望により特別な外出計画を立てている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理しているが、外出時等の際には入居者の希望に添って買い物ができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方からの希望があれば職員も一緒に対応し、ご家族の方などとの電話のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物には季節事の作品を掲示したり、花を飾るなど快適に過ごしていただけるようにしている。また認知機能の低下してきている入居者に対しては、居室やトイレの場所などが分かりやすいように目印を付けるなどの配慮を行っている。	フローは床暖となっており、梁が見える天井と和室などの庇は古民家を連想させてくつろいだ気分になる。食堂兼居間で過ごす人も多いが、一人で過ごせるベンチもあり、和室では一緒に昼寝が日課の人もある等思い思いに過ごしている。壁には行事の写真や季節のちぎり絵などがあり居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファで過ごす方が多くなっているが離れた場所にも和室があり、そこに腰掛けて落ち着いて過ごすことができる。思い思いに過ごす環境は整っていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく居心地の良い空間をつくる様に努めているが、馴染の物を持ち込んでいいことをご家族に伝えても新しい建物の為か持ち込む方が少ないのが現状である。	ベッドと洋服・整理ダンス、洗面台が備えてあり、寝具は持ち込みもある。部屋には家族の写真や小物などが持ち込まれ、壁には猫の写真や表彰状、切り絵の作品などがあり、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口や近くの柱に「トイレ」と掲示したり、居室前に目印となるものを付けたりして自由に行き来できるように支援しているが、職員と一緒に行くことが多くなっているのが現状である。		